土香る会の「有島農場解放百年事業 2022」／企画内容

1　アーカイブ事業

（１）『白水会記録会計』のデジタルアーカイブ化

・『白水会記録会計』所蔵元の岩内町資料館よりアーカイブ化の許諾
・岩内町郷土館に加えて有島記念館との連携も模索
・有島農場解放記念日（7/18）までに、WEB 発行の予定
　～別紙資料①

（２）『狩太夜話』のデジタルアーカイブ化：

・『狩太夜話』所蔵元の有島記念館よりアーカイブ化の許諾
・作業に参加する人を募り、チームを編成して進める

2　「私の農場解放宣言」事業

・「有島農場解放宣言」に関する感想文を広く募集し、解放百年の認知を高める
・有島農場解放記念日（2022/7/18）までに、募集と集約と発表を行う
・協賛依頼申請予定～有島謝恩会、有島記念館、ニセコ町
　～フライヤーの内容は、別紙資料②のとおり。全町新聞折り込みと町広報折り込み（予定）
　～使用する有島武郎の写真については、所蔵する岩内町郷土舘の許諾

3　過去と未来を考える事業

●＜コモンズと相互扶助＞の過去と未来を考える講演とインタビュー・トーク
・テーマ：有島武郎の「コモンズ＆相互扶助」をもとに、脱成長社会への道を探る
　～具体案は、別紙参照③のとおり
　※開催日時等は未定(後日発表)

4　書籍出版事業

●有島武郎の作品からのミニ選集を編集出版し、今後も継続的に出版する事業の第１弾とする
・読書会参加者の間で原案を作り、役員会議を経て実施に移す
　～選択候補対象一覧は、別紙参照④のとおり（資料の中で〇印のついていない作品を対象に）
　　所収となった作品群の選択理由などを記した「解説」を付ける
　　著作権や版権などについて確認が必要

別紙資料①

『白水会記録会計』の時代背景

土香る会（有島記念館と歩む会）

有島農場解放宣言の二日前 1922 年 7 月 16 日、有島武郎は木田金次郎に伴なわれて狩太の有島農場から岩内町を訪れた。その日の夜大勢の聴衆を前に講演し、夜は熱心な青年たちと深夜まで語らった。翌日、武郎は三十人程の人々と岩内老古美の安達牧場を訪れ、牧場主の歓待に感激したことが日記に記されている。この場に集まった人たちの間で「白水会」の結成が提起された。（『緑人社の青春』亀井志乃著より）
「白水」とは、有島の個人雑誌『泉』の字にちなんだ命名である。
この当時、有島武郎の個人雑誌『泉』の購読者が、岩内に 63 名いたという。
彼らを中心に岩内の人たちがいかに熱狂的な歓迎を示したのか、有島武郎の日記にも記されている。

「八時頃から講話をして九時半に及んだろうか。それからつぎつぎに質問が連発されたが明快に答弁することができた。自分の気持ちが自分にすっかり落ちついたことが察せられる。宿に帰ると有志の人たちが押しかけて来て座敷で三十人程で十二時過ぎ一時頃まで又話し合った。実に一同の熱心なのには驚くほかなかった」（最後の日記／大正十一年七月十六日）

『記録会計白水会』は、その後の活動経過についても記載し、大正一一年一一月二十三日に有島武郎に馬鈴薯を送ったこと、翌大正十二年七月には「有島先生の死」を記録している。
有島武郎の岩内訪問によって生まれた「白水会」が地域にもたらしたものは何だったのか。
佐藤弥十郎は、次のように述べている。

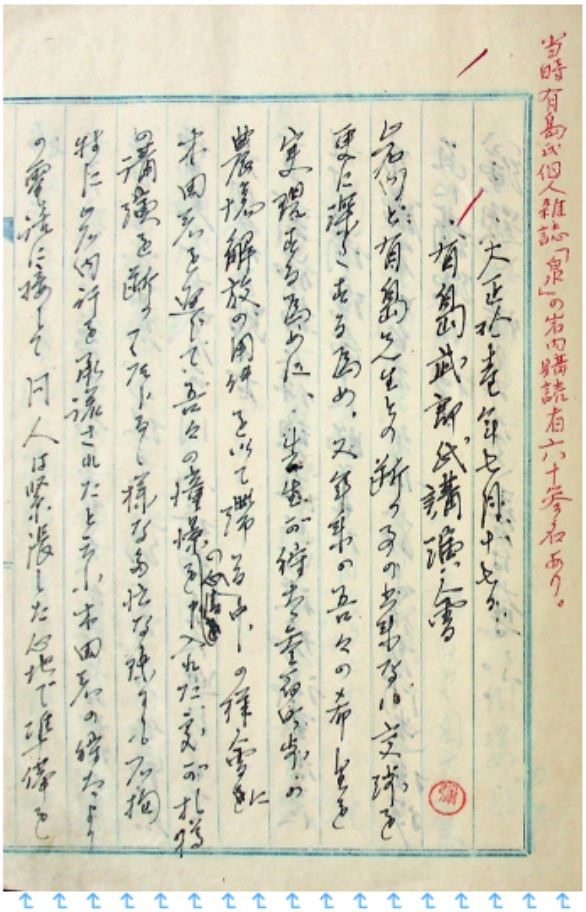
「この会はまったく自然発生ともいうべきもので、会則もなく、会員もなく、したがって役員もない、一見、エタイの知れないグループではあったが、それが、かえって不文律的に、強力に団結し、さかんな活動をつづけたことは、今から思えば快心事であった。当時、封建天国であったこの町に、天邪鬼のようにあらわれた白水会が、左翼、赤と睨まれ、平地に波瀾を巻き起こす“不逞の輩”あつかいにされたのは当然のことであった。」（「四十年前の黎明運動白水会」佐藤弥十郎）

自由で柔軟な結びつきによって支え合う「同人」有志が緩い会則に基づき文化活動を行なった白水会は、まさに有島武郎が理想として掲げた「コモンズと相互扶助」を目指したコミュニティであったといえるだろう。有島農場解放の二大理念が、狩太共生農団だけでなく、岩内の地においても「白水会」として体現されたといって良いのではないだろうか。
その意味において 2022 年は、もう一つの農場解放百年というべき白水会結成百年でもある。

テキスト版発行の経緯

土香る会会員の一人が茅沼炭鉱の調査で岩内町郷土館に赴いた時、郷土館のスタッフが『白水会記録会計』と題する古い資料を見せてくださった。その『白水会記録会計』には、有島武郎との繋がりを得た同時代における岩内の若者たちが文化の真髄を汲み取ろうと奮闘する熱い魂の軌跡が描かれており、その活動の熱量に圧倒された。
多くの人に読んでほしいとの思いから、岩内町郷土館の許可を得て全ページをデジタルスキャンし、さらに、その記述を全てテキストデータ化することについても岩内町郷土舘、岩内町教育委員会の許可を得たことから、有島農場無償解放百年・白水会結成百年を記念する岩内町郷土館と土香る会の共同事業として、デジタルバージョンで発行することになったものである。

紙面レイアウト見本

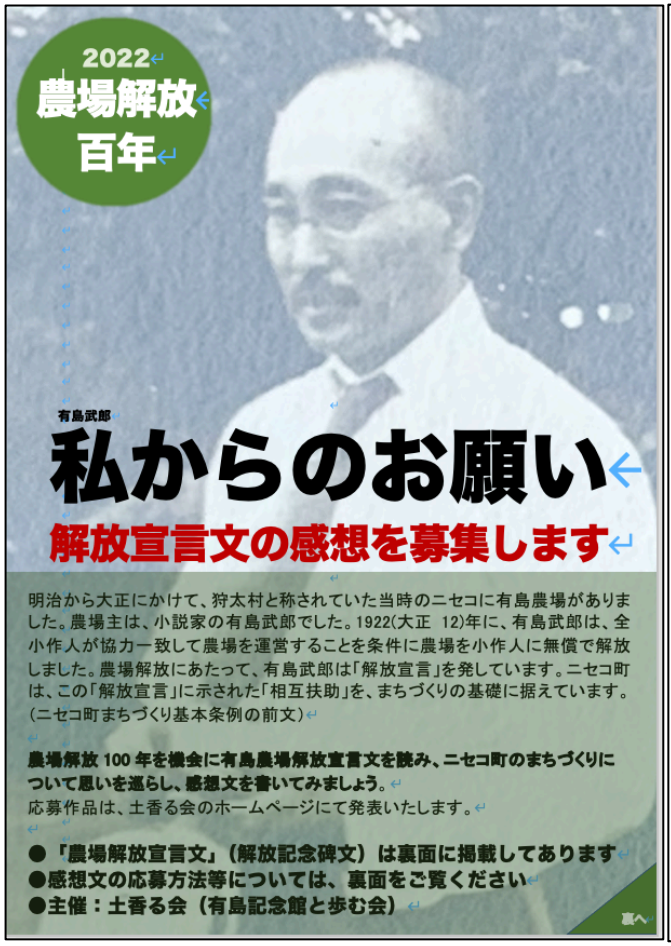


一口大正拾壱年七月十七日、有島武郎氏講演会

岩内と有島先生との断つ事の出来ない交渉を更に深くする為め、又年来の吾々の希望を実現する為めに、先生が狩太参百町歩の農場解放の用件を以て滞在中の機会に木田君を通じて吾々の憧憬の心情を申入れた處が札樽の講演を断って居らるる様な多忙な際にも不拘特に岩内行を承諾されたと云ふ木田君の狩太よりの電話に接して同人は緊張した心地で準備を始めたのであった。

※欄外の注記：当時有島氏個人雑誌「泉」の岩内購読者六十参名あり。

別紙資料②



農場解放記念碑文（ひぶん）

この土地を諸君の頒（わかち）敷に分割してお譲りするという意味ではありません。諸君が合同してこの土地全体を共有するようにお願いするのです。誰でも少し物を考える力のある人ならすぐ分かることだと思いますが、生産の大本となる自然物即ち空気、水、土地の如き類のものは、人間全体で使うべきもので、或いはその使用の結果が人間全体の役に立つよう仕向けられなければならないもので、一個人の利益ばかりのために、個人によって私有さるべきものではありません。それ故にこの農場も、諸君全体が共有し、この土地に責任を感じ、互いに助け合ってその生産を計るようにと願います。
諸君の将来が、協力一致と相互扶助との観念によって導かれ、現代の不備な制度の中にあっても、それに動かされないだけの堅固な基礎を作り、諸君の正しい精神と生活とが、自然に周囲に働いて、周囲の状況をも変化する結果になるようにと祈ります。

以上は農場主有島武郎氏が大正十一年八月十七日（ママ）この農場を我等に解放した時の告別の言葉の一節である。
刻して記念とする。

大正十一年十一月 狩太共生農団

(注)読みやすくするため、旧字旧かな新字現代かなづかいにしてあります。
※右の写真は、有島武郎が小作人を前に解放宣言を読み上げた弥照神社(有島地区)
※表の写真は、解放宣言前日に岩内を訪れた時の有島武郎(安達牧場にて)
岩内町郷土館よりご提供いただきました

感想文の応募方法

●締め切り：2022 年 7 月 18 日（農場解放宣言した日）
●応募様式：・感想文の様式や長さに制限はありませんので、ご自由に。
・氏名、連絡先（住所、電話、E メール等）ご記入下さい。
・郵送、E メール、FAX、WEB（下記）等でお送りください。
●送付先：土香る会（有島記念館と歩む会）
・住 所：虻田郡ニセコ町字富士見 31 番地 41（事務局：春日井）
・TEL&FAX ：0136-44-2106（事務局：春日井）
・E メール ：info@tsuchikaoru-kai.org（事務局：梅田）
・ホームページ：https://tsuchikaoru-kai.org/contact
［土香る会＞お問い合わせ］のページでどうぞ

別紙資料③

■趣旨・目的・テーマ（案）

有島農場解放百年が目指す未来：「コモンズと相互扶助」による脱成長志向の地域づくり

■実施概要（案）

１．**形態**　基調講演＋インタビュー深掘りトーク

２．**登壇者**

・開会宣言と進行　磯野美和（土香る会）

・講演者歓迎挨拶　片山健也氏（ニセコ町長）

・基調講演者　　斉藤幸平氏（大阪市立大学大学院経済学研究科准教授）

・インタビュイー　斉藤幸平氏

インタビュアー　梅田滋（土香る会）

・主催者総括挨拶　井上剛（土香る会）

３．**日程**　未定（～2022 年度中で斉藤幸平氏の都合に合わせる～2022 年内希望）

４．**会場**　ニセコ町民センター大ホール

５．**主催**　土香る会（有島記念館と歩む会）

６．**後援依頼**　有島謝恩会、有島記念館、ニセコ町

７．**予算**　・講師謝礼及び諸経費（斉藤幸平氏）　未定（交渉中）

・広告宣伝（フライヤーの印刷・新聞折り込み、等）、ほか（会場運営費、他）

８．**財源確保**・主催者負担（土香る会）、寄付金（有志）

・ニセコ町補助金（まちづくりサポート事業補助制度：2/3 上限 20 万円）申請予定

■斎藤幸平氏への講演依頼書

斎藤幸平さま

過日、メール等でお願い致しましたご講演について、改めてご依頼申し上げます。

今年 2022 年は、有島武郎がニセコ町（当時は狩太村）に所有していた大農場を小作人に無償解放する宣言を発して（1922 年 7 月 18 日）から、百年目にあたります。有島記念館のアニバーサリー企画とは別に、私たち「土香る会（有島記念館と歩む会）」でもいくつかの記念事業を行う予定ですが、その一つとして、斎藤さまのご講演を元にこれからの日本における「コモンと相互扶助」を考え実践するきっかけになる場を、参加者と共有したいと考えています。

斎藤さまが『人新世の「資本論」』のなかで展開していらっしゃるテーマと内容は、有島武郎の人生や「狩太共生農団」の団員農民の生き方と深く重ねて受け止めることができるものです。
有島武郎の思想と狩太共生農団 25 年間の苦闘と挫折の歴史をもとに、現在と未来の私たちがこれから何をなすべきかについて斎藤さまのお考えをお聞かせいただきながらひとときの模索を致したく、場を共有していただけますよう心から願って、斎藤さまからの朗報をお待ち申し上げます。

ご講演とインタビュートークのような形で、ニセコ町にお越しいただいて行うか、あるいは、リモートの形で行うか、斎藤さまのお考えをもとにご相談させていただきたく思います。
実施日時は、斎藤さまのご都合に合わせたいと思いますので、ご指定いただければ幸いです。
また、講演料や交通費、宿泊費などの諸条件や環境についても、斎藤さまからご提示をいただければ助かります。

私たちの会の役員会議で暫定的にイメージ化した企画概要（案）を、下に記します。
ご講演とそのあとのインタビュートークについて、希望する内容を別紙に簡単に書いてみましたので、合わせてお送りいたします。
どうぞよろしくお願い致します。

■基調講演に期待したい内容

私たち「土香る会」では、貴著『人新世の「資本論」』の中で次のような展開が見られる文脈に、特に深い関心を寄せています。貴著から、引用します。

「＜コモン＞は、アメリカ型自由社会とソ連型国有化の両方に対峙する「第三の道」を切り開く鍵だといっていい」（『人新世の「資本論」』P141）
「ただし、「社会的共通資本」と比較すると、＜コモン＞は専門家任せではなく、市民が民主的・水平的に共同管理に参加することを重視する。」（同 P183-184）
「共同体は、同じような生産を伝統に基づいて繰り返している。つまり、経済循環型の定常型経済であった。・・・（中略）・・・共同体においては、もっと長く働いたり、もっと生産力をあげたりできる場面にも、あえてそうしなかったのである。権力関係が発生し、支配・被支配へと転嫁することを防ごうとしてきたのだ」（同 P193）

「したがって、相互扶助や平等を本気で目指すなら、階級や貨幣、市場といった問題に、もっと深く切り込まなくてはならない。」（同 P135-136）
「つまり、経済成長と潤沢さを結びつけるのをやめ、脱成長と潤沢さのペアを真剣に考える必要がある」（同 P231）
「要するに、＜コモン＞が目指すのは、人工的希少性の領域を減らし、消費主義・物質主義から決別した「ラディカルな潤沢さ」を増やすことなのである。」（同 P266）

「自己抑制を自発的に選択すれば、それは資本主義に抗う「革命的」な行為になるのだ」（P276）
「そして、このプロジェクトの基礎となるのが、信頼と相互扶助である。なぜなら、信頼と相互扶助のない社会では、非民主的トップダウン型の解決策しか出てこないからだ。・・・略・・・だとしたら、結局は、顔の見える関係であるコミュニティや地方自治体をベースにして信頼関係を回復していくしか道はない」（同 P357）
「もちろん、この大きな跳躍の着地点は、相互扶助と自治に基づいた脱成長コミュニズムである」*（同 P358）*

貴著のこの文脈から示唆を受けたわたしたちは、有島農場無償解放百年の歴史を受けて狩太共生農団の＜コモンズと相互扶助＞を改めて理解し再定義した上で、現代の脱成長時代の中で新たな地域社会の将来像を見出し、その実現に向けた実践的道筋を辿るための方策を得たいと考えています。とくに、上記下線部分については、身近な主体的課題として重視していきたいと思っています。

このような問題意識の深化に向けて、斎藤様から示唆をいただくような基調講演とその後のインタビュートークをお願い致したいのです。

以上の趣旨をご理解いただき、基調講演の標題と具体的内容につきましては斉藤様ご自身のご意向にお任せ致したいと思っていますので、ご提示いただけますようお願いいたします。

■斎藤幸平氏への深掘りインタビュートーク論点（案）

テーマ：「人新世」の今日、狩太共生農団「コモンズと相互扶助」の実践から何を学ぶべきか

① 【テーマ設定の時代認識】
「アメリカ型新自由主義とソ連型国有化の両方に対峙する「第三の道」」としての「コモン」は、公共財を市民が民主的に管理することを目指す道である。（斎藤 P141）
人間の活動の痕跡が地球の表面を覆い尽くしている「人新世」（斎藤 P4）という現代を乗り越えていく道を、狩太共生農団の「コモンズと相互扶助」実践史の総括の中から見出したい。
●インタビュートークの狙いとテーマを紹介する（梅田から）
↓

② 【狩太共生農団の内部矛盾】
有島武郎が狩太共生農団に託した「コモンズと相互扶助」に基づき、農団は営農の民主的共同管理を目指したものの、農地の「私的所有願望」を払拭できなかった農団員が多かった。この内部矛盾は、温存された小作権に基づき規約に残された＜平等割３割・出資額割７割＞制によって固定化され、農地使用権の格差を是認する「自助」傾向が多数派であり続けたことで、「コモンズと相互扶助」を農団内部から空洞化させ、結果的に、終戦後は政治の外圧により解団を余儀なくされた歴史がある。
狩太共生農団の農地評価議論で問われたのは、「相互扶助」が「私的所有願望の呪縛」を越えられるか、という問題であった。その底流に垣間見えたのは、共同所有・共同利用に向けて農団員が互いに相手を「信頼」（斎藤 P357）できたのか、という突きつけでもあった。
その結果として、第二次世界戦後の農地改革に直面して、狩太共生農団を共産思想として危険視した国の弾圧が外因となり、相互信頼を醸成できない「分断された自助」に傾いた団員の意識が内因となって、狩太共生農団「コモンズと相互扶助」25 年間の実践史は敗北を強いられた。
●狩太共生農団の農地評価議論（1927 年）について、その対立点の意味を紹介する（梅田から）
●狩太共生農団のこの事例等から、どのような論点を見出すことができるか（斎藤さんから）
↓

③ 【マルク共同体から学ぶ】
そのような狩太共生農団に比して、例えばゲルマン民族のマルク共同体は、土地の共同体所有制だけでなく、土壌成分の循環を維持し、農林産物をコミュニティ外に販売することを禁ずるなど自律的な共同体的規制によって運営されていた。（斎藤 P181）
これは、土地の希少性に基づく資源の囲い込みを防ぐ仕組みでもあった（斎藤 P244-246）
また、共有地の使用についてくじ引きで定期的に入れ替えるなどの流動的な仕組みがあり、利用が私的所有欲に傾くことを防いだことで、所有面だけでなく利用面でもコミュニティ内平等が維持されていた（斎藤 P182）
●「マルク共同体」について、論点に即して詳しく紹介していただきたい（斎藤さんから）
●「マルク共同体」の仕組みから、上記事例に関連して何を学ぶべきか（斎藤さんから）
●また「マルク共同体」以外にも有益な事例があったら、ご紹介いただきたい（斎藤さんから）
↓

④ 【これからのまちづくり議論に向けた問題提起】
脱成長時代を否応なく迎える今日の地域社会において、農場解放百年を期して、狩太共生農団の敗北をこれからのまちづくりに向けてどのように越えていけるかという課題に取り組みたい。
●「人新世におけるコモンズと相互扶助」は、今後の脱成長時代におけるまちづくりにとって、どのような意義と可能性を有するのか。（斎藤さんから）
●試みの一つとして、脱成長時代における取り組みを始めている「都市未来研究会 IN NISEKO」は、斎藤さんの問題提起をどのように受け止め今後展開していくのか（会場から意見など）

※【基調講演と深掘りトークを対象に、会場から質問と意見をいただく】
●上記②～④それぞれのインタビュートークごとに、会場から質問や意見をいただき、最後に、全体を通して質問や意見をいただく

別紙資料④

土香る会「読書会」のテーマ一覧

2022.4.16

No.	年	月	読書対象の作品（すべて有島武郎の作品／別記以外）	形式	既出版	2022	2023
1	2016	11 月	親子		○		
2		12 月	小さき者へ、小さき影		○／○		
3	2017	1 月	An Incident、死と其の前後、実験室、	戯曲	○／／○		
4		2 月	生まれ出づ悩み		○／		
5		4 月	一房の葡萄（＆、おぼれかけた兄妹、碁石を飲んだハちゃん、ぼくの帽子のお話、火事とポチ）、卑怯者		○／○		
6		5 月	フランセスの顔、リビングストン伝（序）		○／		
7		6 月	宣言、石にひしがれた雑草		○／		
8		7 月	お末の死、小さき夢、カンカン虫		○／／○		
9		8 月	カインの末裔、小作人への告別		○／○		
10		9 月	或る女（前）		○		
11		10 月	或る女（後）		○		
12		11 月	星座		○		
13	2018	2 月	大洪水の前、サムスンとデリラ、聖餐、クララの出家	戯曲			
14		3 月	独断者の会話、瞳なき眼、詩への逸脱	詩／短歌			
15		4 月	「聖餐」	戯曲			
16		5 月	「酒狂」「或る施療患者」「骨」～1回目		／／○		
17		6 月	「酒狂」「或る施療患者」「骨」～2回目		／／○		
18		7 月	「運命の訴え」～1回目				
19		8 月	「運命の訴え」～2回目				
20		9 月	「独断者の会話」「瞳なき眼」」他～1回目				
21		10 月	「独断者の会話」「瞳なき眼」」他～2回目				
22		11 月	私が薦める有島作品				
23	2019	2 月	「惜しみなく愛は奪う」～1回目		○		
24		3 月	「惜しみなく愛は奪う」～2回目		○		
25		4 月	相互扶助（1）：P.クロポトキン『相互扶助論』を読む				
26		5 月	相互扶助（2）：有島武郎『惜しみなく愛は奪う』『星座』『小作人への告別』を読む				
27		6 月	クロポトキン の相互扶助、有島武郎の相互扶助に関する会員アンケートの結果				
28		8 月	相互扶助（3）：狩太共生農団の「相互扶助」（高山良二著から）				
29		9 月	相互扶助（4）：ニセコ町まちづくり基本条例と「相互扶助」				
30		10 月	「姉妹」（畔柳二美）				
31		11 月	「屠殺」（阿部信一）				
32	2020	2 月	「迷路」（有島武郎）				
33		6 月	クララの出家		○		
34		8 月	老船長の幻覚				
35		10 月	幻想		○		
36		12 月	潮霧		○		
37	2021	2 月	平凡人の手紙		○		
38	2021	4 月	凱旋				
39		6 月	奇跡の咀／片輪者	戯曲			
40		8 月	動かぬ時計				
41		10 月	死を畏れぬ男				
42		12 月	小さき影				
43	2022	2 月	御柱	戯曲			
44		4 月	ドモ又の死	戯曲	○		
45		6 月	断橋／或る女（後編から）	戯曲			

●この表の「既出版」欄に○印のついていない作品が検討対象